



CHAPTER 59

インポート / エクスポート

Cisco Unified Communications Manager 一括管理ツール (BAT) の [インポート/エクスポート (Import/Export)] メニューを使用して、Cisco Unified Communications Manager データベースの一部を別のサーバに、または変更を加えて同じサーバにエクスポートまたはインポートできます。この方法で、事前に設定したデータベースをインストール済みの Cisco Unified Communications Manager サーバにインポートすることによって設定に要する時間が短縮されます。

次のトピックでは、これらのタスクを行う手順について説明します。

- 「設定のエクスポート」 (P.59-1)
- 「.tar ファイルの編集」 (P.59-7)
- 「設定のインポート」 (P.60-1)

設定のエクスポート

Cisco Unified Communications Manager から設定データをエクスポートする手順は、次のとおりです。

手順

- ステップ 1** [一括管理 (Bulk Administration)] > [インポート/エクスポート (Import/Export)] > [エクスポート (Export)] の順に選択します。
- [データのエクスポート (Export Data)] ウィンドウが表示されます。
- ステップ 2** [ジョブ情報 (Job Information)] セクションの [Tarファイル名 (Tar File Name)] フィールドに、.tar ファイル名を拡張子なしで入力します。
- BPS は、このファイル名を使用して設定の詳細をエクスポートします。
-  **(注)** 一度にエクスポートされたすべてのファイルは、1 つ (.tar) にまとめられ、サーバからダウンロードできます。
- ステップ 3** [エクスポートする項目の選択 (Select items to Export)] セクションの [システムデータ (System Data)] で、適切なチェックボックスをオンにします。次のオプションがあります。
- Cisco Unified Communications Manager
 - [Cisco Unified CM グループ (Cisco Unified Communications Manager Group)]
 - [日時グループ (Date/Time Group)]
 - [デバイスプール (Device Pool)]

- [エンタープライズパラメータ (Enterprise Parameter)]
- [ロケーション (Location)]
- [電話用 NTP(Phone NTP Reference)]
- [リージョン (Region)]
- [サーバ (Server)]
- [サービスパラメータ (Service Parameter)]
- [SRST]
- [セキュリティプロファイル (Security Profile、電話および SIP トランク)]
- [物理ロケーション (Physical Location)]
- [デバイスモビリティグループ (Device Mobility group)]
- [プレゼンスグループ (Presence Group)]
- [LDAP システム (LDAP System)]
- [デバイスモビリティ情報 (Device Mobility Info)]
- [DHCP サーバ (DHCP Server)]
- [DHCP サブネット (DHCP Subnet)]
- [アプリケーションサーバ (Application Server)]
- [LDAP ディレクトリ (LDAP Directory)]
- [LDAP 認証 (LDAP Authentication)]
- [MLPP ドメイン (MLPP Domain)]
- [リソースプライオリティネームスペースネットワークドメイン (Resource Priority Namespace Network Domain)]
- [リソースプライオリティネームスペースリスト (Resource Priority Namespace List)]
- [CUMA サーバセキュリティプロファイル (CUMA Server Security Profile)]
- [位置情報 (Geo Location)]
- [位置情報フィルタ (Geo Location Filter)]
- [エンタープライズ電話の設定 (Enterprise Phone Configuration)]
- [証明書 (Certificate)]
- [LDAP カスタムフィルタ (LDAP Custom Filter)]

ステップ 4 [コールルーティングデータ (Call Routing Data)] で、適切なチェックボックスをオンにします。次のオプションがあります。

- [アプリケーションダイヤルルール (Application Dial Rules)]
- [CSS(コントロールのクラス)]
- [パーティション (Partitions、 コントロールのクラス)]
- [ルートフィルタ (Route Filter)]
- [時間帯 (Time Period、 コントロールのクラス)]
- [スケジュール (Time Schedule、 コントロールのクラス)]
- [トランスレーションパターン (Translation Pattern)]
- [AAR グループ (AAR Group)]

- [FAC]
- [ディレクトリ検索ダイヤルルール (Directory Lookup Dial Rules)]
- [CMC]
- [コールパーク (Call Park)]
- [コールピックアップグループ (Call Pickup Group)]
- [電話番号 (Directory Number)]
- [ミーミー番号 (MeetMe Number)]
- [Cisco Attendant Console のパイロットポイント (Cisco Attendant Console Pilot Point)]
- [ダイレクトコールパーク (Directed Call Park)]
- [SIP ダイヤルルール (SIP Dial Rules)]
- [回線グループ (Line Group)]
- [ルートグループ (Route Group)]
- [ハントリスト (Hunt List)]
- [ルートリスト (Route List)]
- [ハントパイロット (Hunt Pilot)]
- [インターコムルートパーティション (Intercom Route Partition)]
- [インターコムの CSS(Intercom CSS)]
- [アクセスリスト (Access List)]
- [ルートパターン (Route Pattern)]
- [着信側トランスフォーメーションパターン (Called Party Transformation Pattern)]
- [SIP ルートパターン (SIP Route Pattern)]
- [インターコム電話番号 (Intercom Directory Number)]
- [モビリティの設定 (Mobility Configuration)]
- [インターコムトランスレーションパターン (Intercom Translation Pattern)]
- [発呼側トランスフォーメーションパターン (Calling Party Transformation Pattern)]
- [時刻アクセス (Time Of Day Access)]
- [論理パーティションポリシー (Logical Partition Policy)]
- [CCD 要求サービス (CCD Requesting Service)]
- [ホステッド DN グループ (Hosted DN Group)]
- [学習パターンのブロック (Block Learned Patterns)]
- [ホステッド DN パターン (Hosted DN Patterns)]
- [CCD アドバタイジングサービス (CCD Advertising Service)]
- [外部コール制御プロファイル (External Call Control Profile)]
- [トランスフォーメーションプロファイル (Transformation Profile)]

ステップ 5 [メディアリソース (Media Resources)] で、適切なチェックボックスをオンにします。次のオプションがあります。

- [アナウンシエータ (Annunciator)]
- [会議ブリッジ (Conference Bridge)]

- [メディアリソースグループ (Media Resource Group)]
- [メディアリソースグループリスト (Media Resource Group List)]
- [メディアターミネーションポイント (Media Termination Point)]
- [トランスコーダ (Transcoder)]
- [MOH サーバ (MOH Server)]
- [モバイルボイスアクセス (Mobile Voice Access)]

ステップ 6 [ユーザデータ (User Data)] で、適切なチェックボックスをオンにします。次のオプションがあります。

- [SIP レalm (SIP Realm)]
- [アプリケーションユーザ (Application User)]
- [ユーザグループ (User Group)]
- [権限 (Role)]
- [アプリケーションユーザ CAPF プロファイル (Application User CAPF Profile)]
- [クレデンシャルポリシーのデフォルト (Credential Policy Default)]
- [クレデンシャルポリシー (Credential Policy)]
- [エンドユーザ (End User)]
- [エンドユーザ CAPF プロファイル (End User CAPF Profile)]

ステップ 7 [デバイスデータ (Device Data)] で、適切なチェックボックスをオンにします。次のオプションがあります。

- [ソフトキーテンプレート (Softkey Template)]
- [ゲートキーパー (Gate Keeper)]
- [トランク (Trunk)]
- [SIP プロファイル (SIP Profile)]
- [IP Phone サービス (Phone Services)]
- [電話ボタンテンプレート (Phone Button Template)]
- [共通の電話プロファイル (Common Phone Profile)]
- [ゲートウェイ (Gateway)]
- [デバイスのデフォルト (Device Defaults)]
- [デバイスプロファイル (Device Profile)]
- [共通デバイス設定 (Common Device Configuration)]
- [CTI ルートポイント (CTI Route Point)]
- [電話 (Phone)]
- [録音プロファイル (Recording Profile)]
- [リモート接続先 (Remote Destination)]
- [リモート接続先プロファイル (Remote Destination Profile)]
- [機能管理ポリシー (Feature Control Policy)]

ステップ 8 [拡張機能 (Advanced Features)] で適切なチェックボックスをオンにします。次のオプションがあります。

- [メッセージ受信番号 (Message Waiting Numbers)]

- [ボイスメールパイロット (Voice Mail Pilot)]
- [ボイスメールプロファイル (Voice Mail Profile)]
- [ボイスメールポート (Voice Mail Port)]
- [SAF フォワーダ (SAF Forwarder)]
- [SAF セキュリティプロファイル (SAF Security Profile)]
- [EMCC リモートクラスタ (EMCC Remote Cluster)]
- [EMCC クラスタ間サービスプロファイル (EMCC Intercluster Service Profile)]
- [Intercompany Media Engine サーバ接続 (Intercompany Media Engine Server Connections)] : このフィールドを設定する前に、シスコの Intercompany Media Engine (IME) サーバが設置され、利用可能であることを確認してください。
- [Intercompany Media Service] : このフィールドを設定する前に、シスコの IME サーバが設置され、利用可能であることを確認してください。
- [Intercompany Media Service の信頼グループ (Intercompany Media Services Trust Group)] : このフィールドを設定する前に、シスコの IME サーバが設置され、利用可能であることを確認してください。
- [Intercompany Media Service の信頼要素 (Intercompany Media Services Trust Element)] : このフィールドを設定する前に、シスコの IME サーバが設置され、利用可能であることを確認してください。
- [Intercompany Media Service の登録済みパターン (Intercompany Media Services Enrolled Pattern)] : このフィールドを設定する前に、シスコの IME サーバが設置され、利用可能であることを確認してください。
- [Intercompany Media Service の登録済みグループ (Intercompany Media Services Enrolled Group)] : このフィールドを設定する前に、シスコの IME サーバが設置され、利用可能であることを確認してください。
- [Intercompany Media Service の除外グループ (Intercompany Media Services Exclusion Group)] : このフィールドを設定する前に、シスコの IME サーバが設置され、利用可能であることを確認してください。
- [フォールバックプロファイル (Fall Back Profile)] : このフィールドを設定する前に、シスコの IME サーバが設置され、利用可能であることを確認してください。
- [Intercompany Media Service の学習ルート (Intercompany Media Services Learned Route)] : このフィールドを設定する前に、シスコの IME サーバが設置され、利用可能であることを確認してください。
- [VPN プロファイル (VPN Profile)]
- [VPN ゲートウェイ (VPN Gateway)]
- [VPN グループ (VPN Group)]
- [EMCC 機能の設定 (EMCC Feature Config)]
- [Intercompany Media Service のファイアウォール (Intercompany Media Services Firewall)] : このフィールドを設定する前に、シスコの IME サーバが設置され、利用可能であることを確認してください。
- [Intercompany Media Service 除外番号 (Intercompany Media Services Exclusion Number)] : このフィールドを設定する前に、シスコの IME サーバが設置され、利用可能であることを確認してください。

- [Intercompany Media Service E.164 トランスフォーメーション (Intercompany Media Services E.164 Transformation)] : このフィールドを設定する前に、シスコの IME サーバが設置され、利用可能であることを確認してください。
- [Intercompany Media Service 機能の設定 (Intercompany Media Services Feature Configuration)] : このフィールドを設定する前に、シスコの IME サーバが設置され、利用可能であることを確認してください。
- [フォールバック機能の設定 (Fallback Feature Configuration)] : このフィールドを設定する前に、シスコの IME サーバが設置され、利用可能であることを確認してください。

ステップ 9 [すべてを選択 (Select All)] ボタンを使用すると、すべてのチェックボックスを一度にオンにでき、[すべてをクリア (Clear All)] ボタンを使用すると、すべてのチェックボックスをオフにできます。

ステップ 10 [ジョブ説明 (Job Description)] フィールドに、ジョブの説明を入力します。デフォルトの説明は、「Export Configuration」です。

ステップ 11 対応するオプション ボタンを選択して、ジョブをすぐに実行するか、後で実行するかを選択できます。

ステップ 12 関連レコードもエクスポートするために、テーブルの相互依存関係を確認するには、[依存関係の確認 (Check Dependency)] をクリックします。



(注) 依存関係を確認した後、任意のチェックボックスをオフにできます。依存関係の確認を省略することもできます。



(注) 依存関係の確認は、依存関係の 1 レベルだけの従属アイテムを選択します。たとえば、アイテムが CSS に従属している場合は、CSS のみが選択され、CSS が依存しているアイテムは選択されません。

ステップ 13 [送信 (Submit)] をクリックして、選択したデータをエクスポートするジョブを作成します。

[ステータス (Status)] セクションのメッセージで、ジョブが正常に送信されたことが示されます。

ステップ 14 [一括管理 (Bulk Administration)] メイン メニューの [ジョブスケジューラ (Job Scheduler)] オプションを使用して、このジョブのスケジュールやアクティブ化を行います。

ジョブの詳細については、[第 79 章「ジョブのスケジュール」](#) を参照してください。

ログ ファイル

1 つのエクスポート トランザクションで複数のログ ファイルが作成されます。トランザクション全体に関して 1 つ、エクスポートするために選択した各項目に 1 つずつ、ログ ファイルが作成されます。これらのログ ファイルでは、項目ごとに別個の結果が示されます。ログ ファイル名の先頭に項目名が追加されるため、ログの識別は容易です。

これらのファイルには、[ジョブスケジューラ (Job Scheduler)] ページからアクセスできます。

追加情報

「[関連項目](#)」(P.59-8) を参照してください。

.tar ファイルの編集

tar ファイルは、CSV ファイルのリストとヘッダー ファイルで構成されます。ヘッダー ファイルは、エクスポート元のサーバの詳細とエクスポートが実行された時刻を参照するために使用できます。ヘッダー ファイルには、パッケージ内のファイルの詳細も記述されています。

必要なデータをエクスポートした後に設定に変更を加える場合は、エクスポートした .tar ファイルを次の手順で編集することで変更できます。

手順

ステップ 1 [一括管理 (Bulk Administration)] > [ファイルのアップロード/ダウンロード (Upload/Download Files)] の順に選択します。

[ファイルの検索と一覧表示 (Find and List Files)] ページが表示されます。

ステップ 2 「ファイルのダウンロード」(P.2-2) の手順に従って、更新する .tar ファイルをダウンロードします。

ステップ 3 「tar-xvf」 コマンドを使用して、マシン上の任意の場所に .tar ファイルを展開します。

指定した場所に .csv ファイルが展開されます。



(注) 「tar-xvf」 コマンドは、Windows サーバに対しては機能しない場合があります。TAR および UNTAR 操作は、7-Zip を使用している Windows で実行可能です。7-Zip は、WWW で入手可能なフリーウェアです。



(注) .csv ファイルの名前は、常に項目名と同じです。

ステップ 4 MS Excel を使用して .csv ファイルを編集し、変更内容を保存します。



(注) メモ帳または Wordpad を使用しても .csv ファイルを編集できますが、.csv ファイルの編集には MS Excel を使用することをお勧めします。

.csv ファイルは、同じファイル名およびファイル形式を常に維持する必要があります。tar パッケージに新しいファイルを追加する場合は、そのファイルの名前とファイル形式が、Cisco Unified Communications Manager からエクスポートした場合と同じになるようにします。新しいファイル名がヘッダー ファイルに追加されたことも確認してください。



ヒント 新規項目を追加する場合は、その項目のレコードがなくても、その項目を必ず Cisco Unified Communications Manager からエクスポートするようにしてください。それによって、正しい名前とファイル形式を持つ .csv ファイルが作成されます。

ステップ 5 「tar-cvf」 コマンドを使用してファイルを再圧縮し、新しい .tar ファイルがデフォルトの共通の場所に保存されたことを確認します。



(注) 「tar-cvf」 コマンドは、Windows サーバに対しては機能しない場合があります。TAR および UNTAR 操作は、7-Zip を使用している Windows で実行可能です。7-Zip は、WWW で入手可能なフリーウェアです。

**注意**

BPS が .tar ファイルを検索するのはデフォルトの場所だけなので、ファイルを再圧縮するとき、.tar ファイルは元のディレクトリ構造を保持している必要があります。

ステップ 6 「ファイルのアップロード」(P.2-3) の手順に従って、インポートする .tar ファイルをアップロードします。

**(注)**

必ず、ターゲットに [インポート/エクスポート (Import/Export)] を選択し、トランザクションタイプに [インポート (Import)] を選択してください。

**(注)**

メモ帳または Wordpad を使用して編集する場合は、ファイル形式内のすべての新規エントリに必ずカンマを追加してください。

**(注)**

[インポート/エクスポート (Import/Export)] ツールでは、パスワードおよび PIN の属性の更新はサポートされていません。これらの情報は暗号化形式でファイルにエクスポートされるため、プレーンテキストには変更できません。クレデンシャルを持つエンティティは、共通の電話プロファイル、SIP レルム、アプリケーション ユーザ、LDAP 認証、LDAP ディレクトリ、Cisco Attendant Console、およびエンド ユーザです。エクスポートされるファイルの `enduser.csv` に含まれる [User ID]、[User Pkid]、[Password]、[Pin] の各フィールドは変更できないことに注意してください。

関連項目

- 「設定のエクスポート」(P.59-1)
- 「.tar ファイルの編集」(P.59-7)
- 「ファイルの検索」(P.2-1)
- 「ファイルのダウンロード」(P.2-2)
- 「ファイルのアップロード」(P.2-3)
- 「ファイルの削除」(P.2-4)
- 「設定のインポート」(P.60-1)